

第4回静岡市文化振興審議会 議事録

日時：令和8年2月9日(月)10:00~12:00

会場：静岡庁舎 新館9階 特別会議室

出席者:委員:別添名簿のとおり

文化政策課：望月課長、後藤課長補佐兼交流推進係長、三浦参事兼芹沢銈介美術館長、
 多々良主幹兼まちは劇場推進係長、石川文化振興係長
 福原主査、伊藤主任主事、松井主事
 (公財)静岡市文化振興財団:荒井主事・磯合主事

《議事》

- ・第4次静岡市総合計画見直しに伴う第2期静岡市文化振興計画の見直しについて
- ・第2期静岡市文化振興計画 中間評価について

《情報提供》

- ・文化事業(大道芸ワールドカップ in 静岡)の 社会的価値の定量評価についての取り組み
- ・静岡市民文化会館再整備事業について

【記録】

	内容	
10:00	開会	石川係長
10:15	会長 挨拶	平野会長
10:20	議事録署名人1名:高市委員 【議題】 ・第4次静岡市総合計画見直しに伴う第2期静岡市文化振興計画の見直しについて 【説明】 ・静岡市文化振興計画の見直しについてご審議いただきたい。 【経緯】 ・地方自治法に基づいて、各自治体は総合計画を策定している。 ・総合計画の下に「分野別の行政計画」が位置づけられており、文化振興計画は文化分野の基本計画である。 ・最上位計画である総合計画の見直しに伴い、当該見直しの内容に基づいた文化振興計画の見直しが必要となっている。 ・見直しを要する箇所は大きく2点 1点目:文化振興計画 体系図における「文化でにぎわうまちづくり」、「多様なにぎわいの創出」部分。 【資料:静岡市総合計画の見直し】 ・新たな静岡市総合計画を策定する上で、アウトプット型、「市民に何	平野会長 後藤補佐

	<p>を供給するか」からアウトカム型「市民にとってどういうよいことが生まれるのか」という考え方が重要になってきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化振興計画の体系図でいうと「文化でにぎわう」、「多様なにぎわい」のような「にぎわい」という表現は状態を表す表現。新たな総合計画を策定する中で、「にぎわい」の先に何があるのか、何がもたらされるのかという部分まで踏み込んで計画を考えなければならないと指摘を受けている。 ・該当部分について、にぎわいの先を見据えた適切な言葉で表現したい。事務局の案としては「文化で集うまちづくり」、「文化で稼ぐまちづくり」などが挙がっているがその他意見を頂戴したい。 ・文化の価値における経済的価値にばかり重きを置くという趣旨ではない。本質的価値を大前提とした上で、経済的価値を見据えた取り組みも行っていかなければならないという意図である。 ・2点目:文化でつながるまちづくり「サードプレイスの増加」 →令和6年度 第3回審議会において、伊藤委員より指摘のあった「サードプレイス」という表現 <p>最近の議論で、「サードプレイス」という元の意味に立ち返ったときの意味では間違いはないが、今、「第1の居場所」、「第2の居場所」というような、「家庭」と「仕事」あるいは「学校」のような考え方が働き方も変わってきて、きっちり分けられるものではなくなっている中で、第1、第2、第3という分け方は、少し古くなりつつあるのではないかという議論があった。</p> <p>→サードプレイスという表現は使用せず、他の言い回しで表現できる案を伺いたい。</p>	
10:30	<p>質疑</p> <p>【サードプレイスの表現について】</p> <p>今の時代、ファーストプレイスである自宅、セカンドプレイスである職場という概念に対する社会的な居場所としてのサードプレイスという表現が分かりやすすくない社会になってきている。あるいはサードプレイスという言葉が使われすぎてしまって、カフェのことかな？というような認識は広まってきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方で、趣旨自体の重要性は理解している中で、それをどういう風に言い換えるのか、どういう枠組みで計画の中に入れていくのかは難しく代案がある訳でもない。違和感がなく使いやすいということであればこのままでもよい。 ・サードプレイスは家庭や職場とは違う「コミュニティ」だと考えており、体系図左側の「誰ひとり取り残さない機会の提供」の中に含まれる 	<p>伊藤委員</p> <p>成島委員</p>

<p>とも考えられるが、「サードプレイスの増加」の部分では、ハード面での機会を特出ししているという認識であった。文化施設の役割をここでどう盛り込むかが重要だと考える。</p> <p>・「誰ひとり取り残さない機会の提供」の施策にコミュニティのことが記載されており、「サードプレイスの増加」の施策には「公共施設の有効活用」と記載があることに焦点を当てて考えると、「公共施設の機能性の拡張」、「文化をブーストする場」という意味の言葉を入れられたらよいのではないか。</p> <p>・「公共施設」をキーワードに、「公共施設の有効活用」や「公共施設の拡張利用」がサードプレイスの施策の部分に載ってくると、より市のミッションが明確になってくる。</p> <p>・場所ありきというよりは、「アウトリーチ事業や外に出ていく事業を含めてコーディネートするような役割が公共施設に求められている。」というような表現を盛り込めるとよい。</p> <p>・日本語に訳した時に、家庭・職場・第三の「場所」というと、「スペース」といったハード面のことを連想しがちだが、本来、施設の機能も一体になっている。コミュニティも機能の一つと言える。</p> <p>・「サードプレイス」の論議は、ソフトの部分での論議だったと記憶している。静岡市民文化会館改修にあたって「目的を持った場所」という意味で、「サードプレイスのような機能を持たせたらどうか」と論議をした。「サードプレイス」が単なるハコ(場所)だということであれば、公民館のような施設をたくさん作ればよいという話になる。ただ、そうではなくて文化的な価値や方向性を持って作っていくという論議をしていた。</p> <p>・今は、技術革新が進み、「カフェ」のような「電源」さえある場所で十分という時代になってきている。そのような中で、社会的インフラとして「サードプレイス」を創る必要があるかというところまで事態は進んでいる。何をするために「サードプレイス」を創るのが曖昧で全体の需要予測に留まってしまっている。</p> <p>・個別化が進む中で、何となく人が感じられる、人と人とのコミュニケーションが取れるスペースが求められている。</p> <p>・当初、「サードプレイス」は「場所」のイメージであったが「人の繋がりが持てる場所」というイメージも持っている。カフェのような1人で過ごす場所も「サードプレイス」と呼んでいると聞いて、人によって言葉のイメージが違うのではないか。「場所」がなくなっても、「人の繋がりがしっかりしていればサードプレイスはどこでも機能すると感じているので、そのイメージは文言に残したい。</p> <p>・体系図において全体ではなく赤枠の中だけが見直しの対象なのか。</p>	<p>中山委員</p> <p>平野会長</p> <p>成島委員</p> <p>平野会長</p> <p>久保田委員</p> <p>久野委員</p> <p>海野委員</p>
---	--

<p>・赤枠以外の箇所も見直していただいて構わない。文化振興計画の見直しは来年度実施のため、本日中に答えを出す必要はない。</p> <p>・市の総合計画などは長期ビジョンでやっていくと、途中で時代の流れからずれていくのは当然。目指す将来像や基本目標まではブレないが、それ以下は時代に合わせて柔軟に変化させていってもよいのではないか。「サードプレイス」については、人それぞれ様々なイメージがあって漠然としている。市が策定している計画の中にそのような漠然と表現でなおかつ置き換える言葉も見つからないようなものを使用するのは難しいのではないか。</p> <p>・「サードプレイス」をどう読み替えるのか、はたまたいらないのか議論をしていただければと思うが、一方でリアルな「場所」はいらぬのか、ネットの中ですべて済むのか、公の役割の中での「サードプレイス」という概念や文言は残しておいた方がよいと考える。</p> <p>・サードプレイスは「居場所」であると考えている。福祉の観点でいうと、「居場所」がなく、どこに行ったらいいのか、何をしたらいいのか分からないという人は大勢いる。「場所」と「きっかけ」がないため、次のステップに行けないという現状がある。「ソフト」と「ハード」の両方を整備していかないといけない。ハード面が整備されていけば、「文化」はそこに根付きやすい。「場所」と「コンテンツ」と「人」が揃えば「居場所」として機能していくので、その部分を市として何か役割を担えとよいと考える。</p> <p>・公共施設の拡張利用や有効利用という観点では、静岡市文化振興財団で所管している「生涯学習施設」がそういう機能を果たしていくと考えている。文化施設でいうと美術館や音楽館は市民にとって敷居が高い、行きづらいと思われがちである。今、美術館で実施している展示会は、子ども向け、親子向けという事もあり、「展示室内お話OK」とチラシに謳っていて、それがハードルを下げる要素となったと感じている。</p> <p>・「サードプレイス」という概念は、家庭や仕事など本来担っている「役割」から解放される場所とされている。そういった場所を創出する取り組みが公共施策の中に入っているというのはよいことである。</p> <p>・石川県立図書館は「知的な居場所」をコンセプトに掲げて、今とても人気が出ている。これまでの「教育施設」としての図書館、「静かな場所」、「私語はしてはいけない場所」というイメージを「そうではない」とコンセプトに意図を盛り込むことでサードプレイスとして機能する。</p> <p>・国の第2期文化芸術振興計画の指針では、文化的価値・社会的価値・経済的価値のバランスを取って地方の計画に盛り込むこととなっている。</p>	<p>後藤補佐</p> <p>海野委員</p> <p>平野会長</p> <p>遠藤委員</p> <p>高市委員</p> <p>佐々木委員</p>
--	--

<p>・各委員の意見を踏まえ、体系図の見直しについては、継続して審議していく。</p>	<p>平野会長</p>
<p>【文化でにぎわうまちづくりの表現について】</p>	
<p>・総合計画の見直しに合わせて「にぎわい」のもう一步先を見据えた表現を落とし込んでいかなければならない。</p>	
<p>・総合計画に合わせてというよりは、時代の方がその方向に傾いているのもあるため、表現の仕方を整理整頓する必要があると考える。</p>	
<p>・情報提供項目に記載されている「文化事業(大道芸ワールドカップ in 静岡)の社会的価値の定量評価についての取り組み」について、本議論に関連してくる部分があると思うので、先に報告をお願いしたい。</p>	<p>佐々木委員</p>
<p>【報告】文化事業(大道芸ワールドカップ in 静岡)の社会的価値の定量評価についての取り組み</p>	<p>後藤補佐</p>
<p>・国土交通省の環境アセスメント→目に見えない価値の部分を定量化する方法として示されている。</p>	
<p>(調査方法)</p>	
<p>・来場者アンケート サンプル 1,000 以上</p>	
<p>・フェスティバルに対する価値を聴取</p>	
<p>・下記項目を数値(対価)で回答</p>	
<p>*ウェルビーイング</p>	
<p>*集団的アイデンティティ・シビックプライド</p>	
<p>*人のつながり、自己成長</p>	
<p>・プライスレス、価値なしは中央値を取る</p>	
<p>→これらの手法を用いて社会的価値の定量評価を行う取り組みを行った。(WTP の考え方に基づく手法)</p>	
<p>・文化事業がどれだけ社会的意義があるかを図るための手法。可児市の劇場「アーラ」では、更に進んだ手法を用いて文化事業の評価を行っている。大切なことは、経年的にデータを取っていくこと。文化事業の社会的・経済的効果や目的と結果を説明する根拠として使用できる。</p>	<p>佐々木委員</p>
<p>・今実施している文化事業がなくなった時にどうなるのか。(富山県の「おわら風の盆」の例)年間を通して文化事業を実施することで、その街に留まる理由となるような視点が必要。文化事業をテコにしてつながりを創れるような仕組みがほしい。</p>	<p>久保田委員</p>
<p>・フェスタ静岡(現:駿府城夏まつり)→帰省した大学生を対象に実施している。</p>	<p>後藤補佐</p>
<p>・「にぎわい」だけで終わるのではなく、その先にある「人を引っ張ってくる力」がほしいという点においては、地元企業にも役割を求めたい。</p>	<p>久保田委員</p>

<p>・「にぎわう」と表現するとどうしても「人数」だけのイメージになってしまうが、文化の価値を算出する際に「人数」はあてにならない時代になっている。文化度の高さを数値化するような評価を織り込めるとよいのではないか。</p>	海野委員
<p>・文化振興計画の体系図は、景観法 第2条 基本理念のつくり に似ている。</p>	伊藤委員
<p>* 景観の重要性（文化でいう本質的価値） * 活性化（文化でいう経済的価値） * 地方公共団体・住民・事業者が協働（文化でいう社会的価値） →「にぎわい」の先にあるのは「活性化」であるとも考えられる。</p>	中山委員
<p>・静岡市は、現在、クリエイター誘致などに力を入れており、「コンテンツ産業」というワードがキーワードになるのではないかと感じている。先を見据えて「コンテンツ」というワードを計画に盛り込むのもよいのではないか。</p>	佐々木委員
<p>・クリエイターやコンテンツ産業については、経済局と情報を共有して双方に効果的な表記としていくこと。</p>	後藤補佐
<p>・静岡市でもメディア芸術の振興という観点で、令和7年度より「しずおかショートフィルム／マンガコンテスト」という事業に着手している。事業の実施にあたっては、デジタル系の DX 推進課、経済局の産業基盤本部と連携を取って実施している。</p>	望月課長
<p><u>→事業内容について、委員に情報提供する。</u></p>	
<p>【報告】</p>	
<p>・静岡市民文化会館再整備事業について</p>	
<p>【議題】</p>	
<p>「第2期静岡市文化振興計画 中間評価アンケート調査について」</p>	
<p>【ポイント】</p>	福原主査
<p>・中間評価のため、基本的には策定時に取ったアンケート項目と同一の内容で調査を実施することを想定している。</p>	
<p>・設問の増設や設問の変更は想定していない。</p>	
<p>・選択肢の追加や議題1で議論した第2期静岡市文化振興計画の見直しに伴い、視点の修正を行うことから、それに付随して「にぎわい」に関連する質問項目を掘り下げて質問するなどの変更は想定している。</p>	
<p>・現時点での事務局案では、設問4の選択肢に「静岡市歴史博物館」を追加する。設問5の事業内容を現状に併せて修正する。設問13に「地域のまつり」を追加する。以上の3項目。</p>	
<p>→追加、その他意見等はメールにて提出</p>	

12:10	事務連絡 閉会	石川係長
-------	------------	------

署名(会長) 平野雅彦 

署名(委員) 高市純行 

